

小学生のスポーツ活動における
保護者の関与・負担感に関する調査研究
(速報値)



一 調査概要 一

● 調査目的

保護者が子どものスポーツ環境を「ささえる」行動の実態や、子どものスポーツ環境やそれを「ささえる」体制に関する保護者の意識を明らかにする。

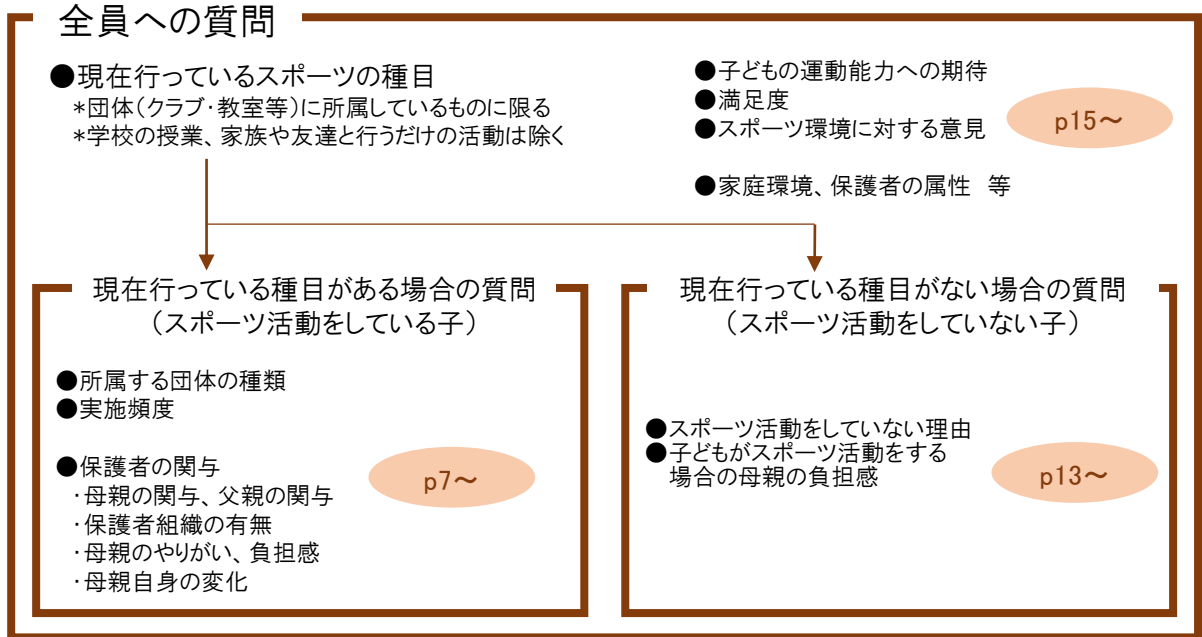
● 調査方法・調査対象

インターネット調査。小学1～6年生の第1子をもつ母親が対象。第1子の属性が各学年男女400名ずつになるように回収した。有効回答数は2,368名。
※小学生の子どもが複数いる場合は、第1子について回答してもらった。

● 調査時期

2017年2月

● 主な調査項目



● 調査結果を読む上での注意点

- ・本報告では、「団体(クラブ・教室等)に所属して定期的に行っているスポーツ活動」を「スポーツ活動」と略している。
- ・図表中の「人口規模別」の人口は、居住地(市区町村)の回答をもとにして特定・算出している(総務省「平成28年1月1日住民基本台帳人口・世帯数、平成27年(1月1日から同年12月31日まで)人口動態(市区町村別)(総計)」を使用)。
- ・図表中の「保護者の期待別」「地域クラブ所属別」については、それぞれ「子どもの運動能力への期待(図1-3参照)」「所属する団体の種類(図1-4参照、「地域のスポーツクラブ」所属の有無で分けている)」の回答結果をもとに分析している。
- ・表中の数値は、全て列%で表示している。また、数値で5ポイント以上の差がある場合には<>、10ポイント以上の差がある場合には<<>>の記号をつけている。

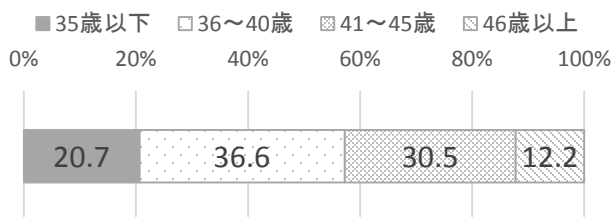
— 基本属性 —

● 子どもの性別・学年

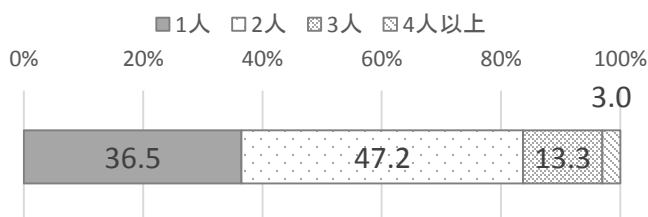
男子						女子						合計
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
199	198	199	198	195	197	196	196	198	198	197	197	2,368

(人)

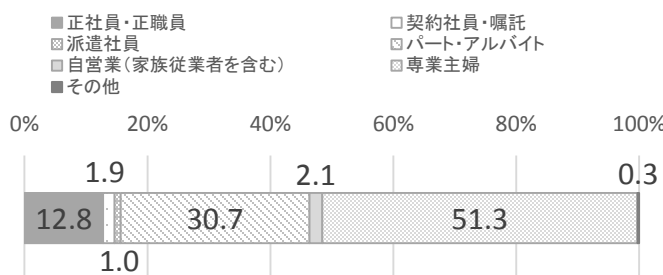
● 母親の年齢



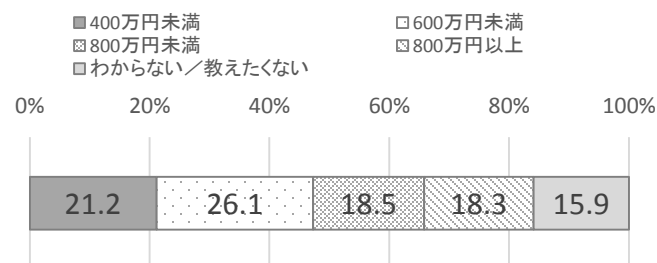
● 子どもの人数



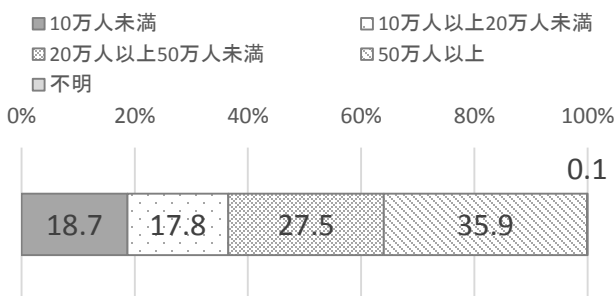
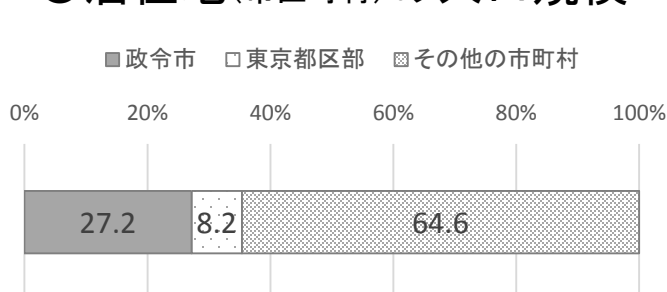
● 母親の就業形態



● 世帯年収



● 居住地(市区町村)の人口規模



— 目次 —

- I. 子どものスポーツ活動(クラブ・教室等)……………p4
- II. スポーツ活動をしている子どもの家庭……………p7
- III. スポーツ活動をしていない子どもの家庭……………p12
- IV. 子どものスポーツ環境に対する意識……………p15

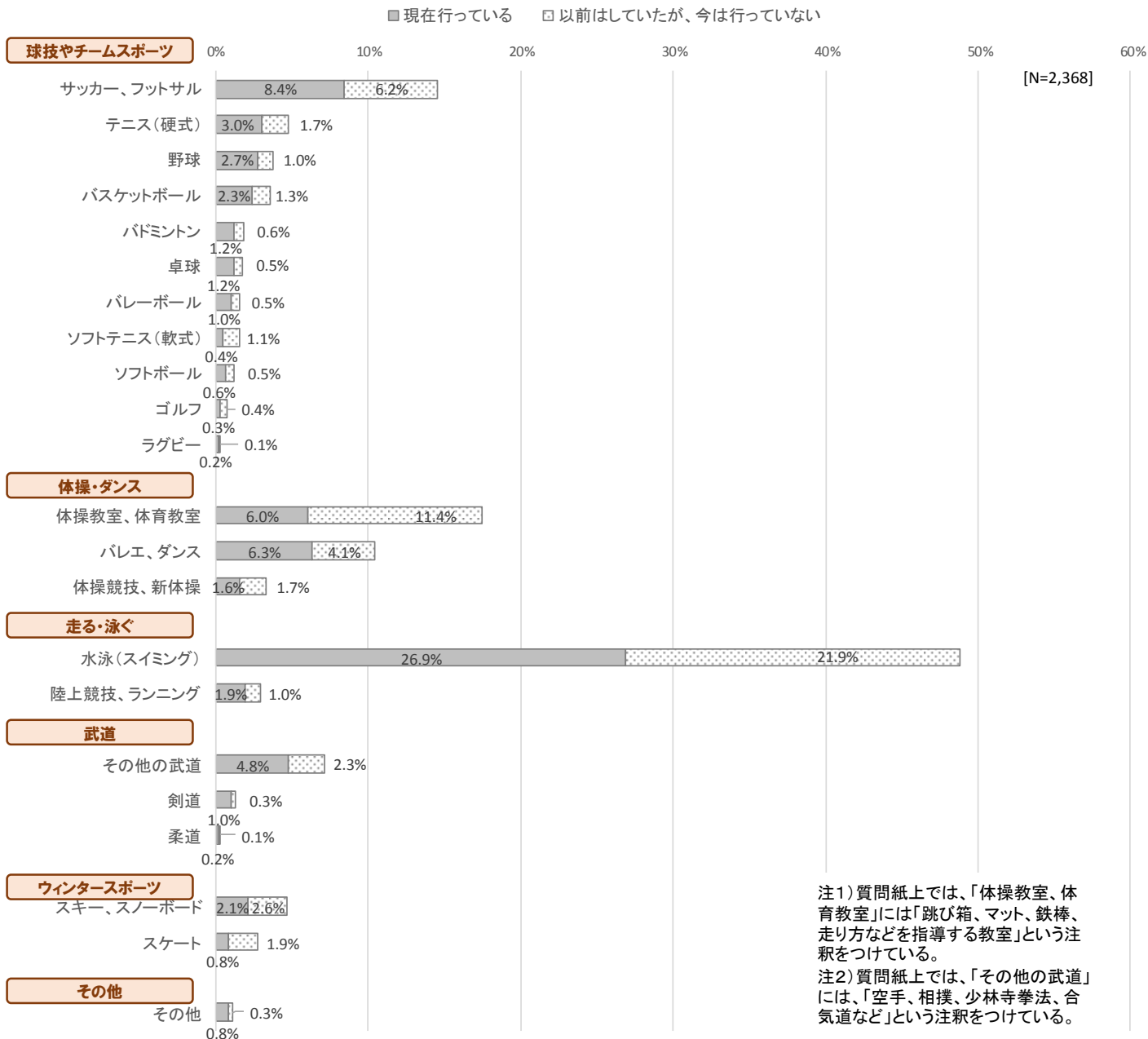
I. 子どものスポーツ活動(クラブ・教室等)

I-1)子どもが行っている種目

小学生が行う種目では、「水泳」「サッカー、フットサル」「体操教室、体育教室」「バレエ、ダンス」が多い。

Q: お子様は小学生になってから、団体(クラブ・教室等)に所属して、以下のようなスポーツ活動を定期的に行ったことがありますか。

図1-1 子どもが行っている種目



注1) 質問紙上では、「体操教室、体育教室」には「跳び箱、マット、鉄棒、走り方などを指導する教室」という注釈をつけている。

注2) 質問紙上では、「その他の武道」には、「空手、相撲、少林寺拳法、合気道など」という注釈をつけている。

I -2) 現在行っている種目数

「行っていない」が46%、1種目が39%、2種目が12%。

図1-2 現在行っている種目数



表1-1 現在行っている種目数(第1子性別、世帯年収別)

	性別		世帯年収			
	男子 (1,186)	女子 (1,182)	400万円未満 (501)	600万円未満 (619)	800万円未満 (439)	800万円以上 (433)
行っていない	38.6% <<	53.5%	58.7% >>	46.5%	42.1% >	32.8%
1種目	42.6% >	34.6%	30.7% <	39.3%	41.9%	43.6%
2種目以上	18.8% >	11.9%	10.6%	14.2%	15.9% <	23.6%

I -3) 子どもの運動能力への期待

子どもにスポーツでの活躍を期待する母親は27%。
「スポーツが下手でも健康であればよい」とする母親も27%。

Q: お子様にはどれくらいスポーツができてほしいと思いますか。

図1-3 子どもの運動能力への期待

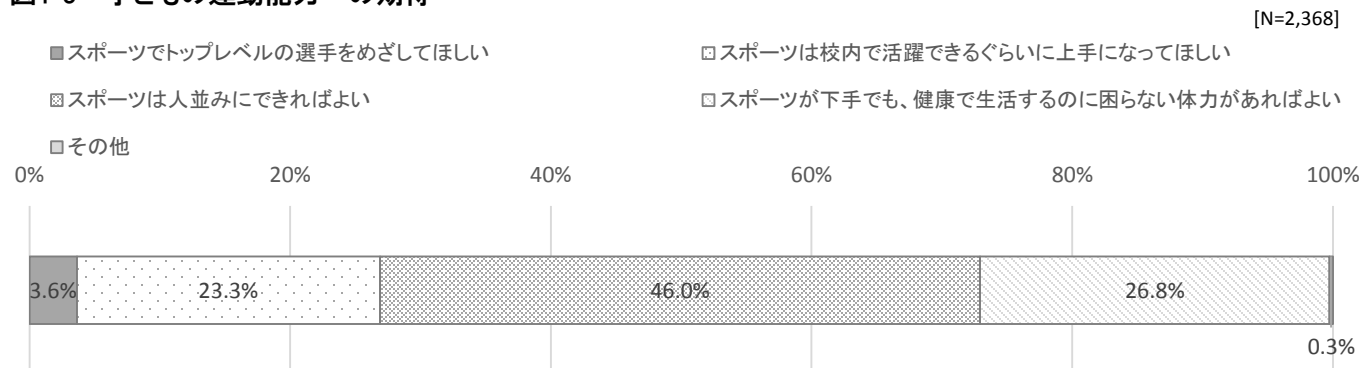


表1-2 子どもの運動能力への期待(第1子性別、世帯年収別)

	性別		世帯年収			
	男子 (1,186)	女子 (1,182)	400万円未満 (501)	600万円未満 (619)	800万円未満 (439)	800万円以上 (433)
スポーツでトップレベルの選手をめざしてほしい	3.7%	3.6%	4.2%	3.1%	3.9%	4.4%
スポーツは校内で活躍できるぐらいに上手になってほしい	25.7%	20.8%	17.8% <	23.4%	23.9%	28.4%
スポーツは人並みにできればよい	46.1%	45.9%	44.9%	47.5%	47.4%	46.0%
スポーツが下手でも、健康で生活するのに困らない体力があればよい	24.1% <	29.5%	32.7% >	25.7%	24.4%	21.2%
その他	0.3%	0.2%	0.4%	0.3%	0.5%	0.0%

I -4) 所属する団体の種類

「民間のクラブ・教室」73%、「地域のクラブ」31%。

Q: お子様は、どのような団体(クラブ・教室等)に所属してスポーツ活動を行っていますか。

図1-4 所属する団体の種類(スポーツ活動をしている子・複数回答)

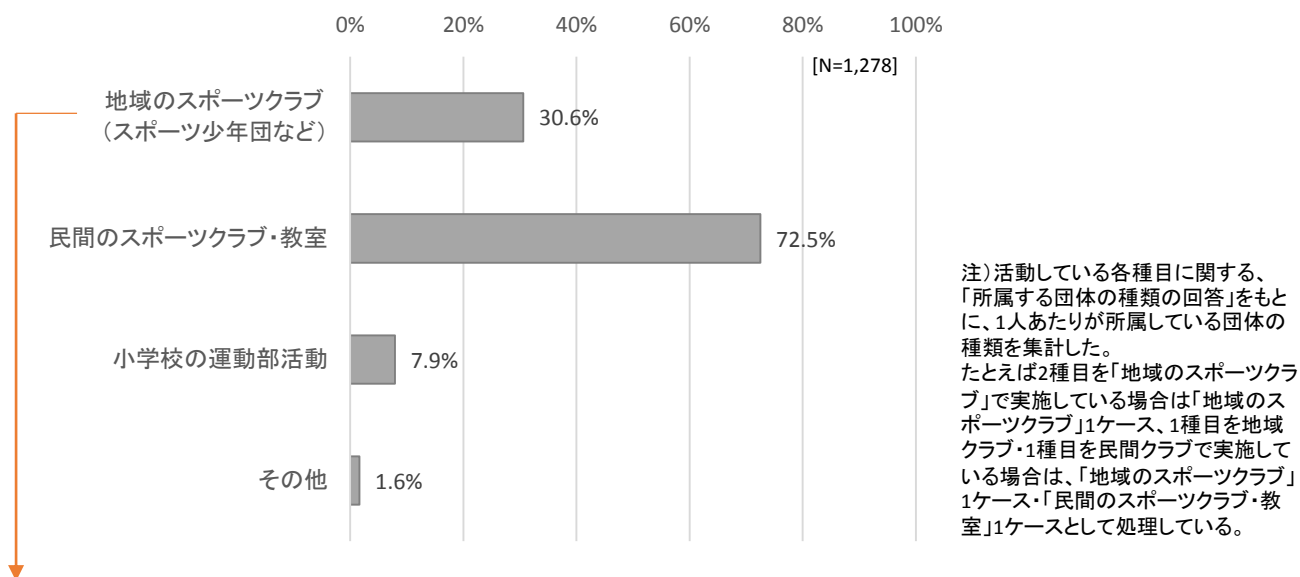


表1-3 地域のスポーツクラブ所属率(スポーツ活動をしている子・第1子性別、学年別、人口規模別、保護者の期待別)

性別		学年					
男子 (728)	女子 (550)	1年生 (212)	2年生 (221)	3年生 (223)	4年生 (233)	5年生 (204)	6年生 (185)
35.6%	24.0%	20.3%	28.5%	32.3%	31.8%	35.3%	36.2%

居住地の人口規模				保護者の期待			
10万人未満 (224)	10万人以上 20万人未満 (224)	20万人以上 50万人未満 (368)	50万人以上 (460)	トップレベルの選手をめざす(68)	校内で活躍できる(421)	人並みにできる(580)	生活に困らなければ下手でもよい(205)
39.7%	29.5%	32.3%	25.2%	47.1%	37.8%	24.8%	26.3%

地域クラブが多い種目の例

- 野球(81.5%)
- バスケットボール(56.4%)
- サッカー(47.2%)

民間クラブが多い種目の例

- 水泳(90.7%) 硬式テニス(83.3%)
- 体操教室・体育教室(81.1%)
- バレエ・ダンス(78.7%)
- スキー・スノーボード(52.0%)

注)()内の数値は、各種目の実施者が、図1-4の4つの選択肢のなかから「地域のスポーツクラブ」/「民間のスポーツクラブ」を選択した割合を示す。

保護者の関与・負担感を検討する前提として、子どものスポーツ活動には、子の属性、家庭環境、地域環境、保護者の期待などが影響している。特に地域クラブでは男子・高学年が多く、また保護者の子どもに対する期待も高いことがわかる。

Ⅱ. スポーツ活動をしている子どもの家庭

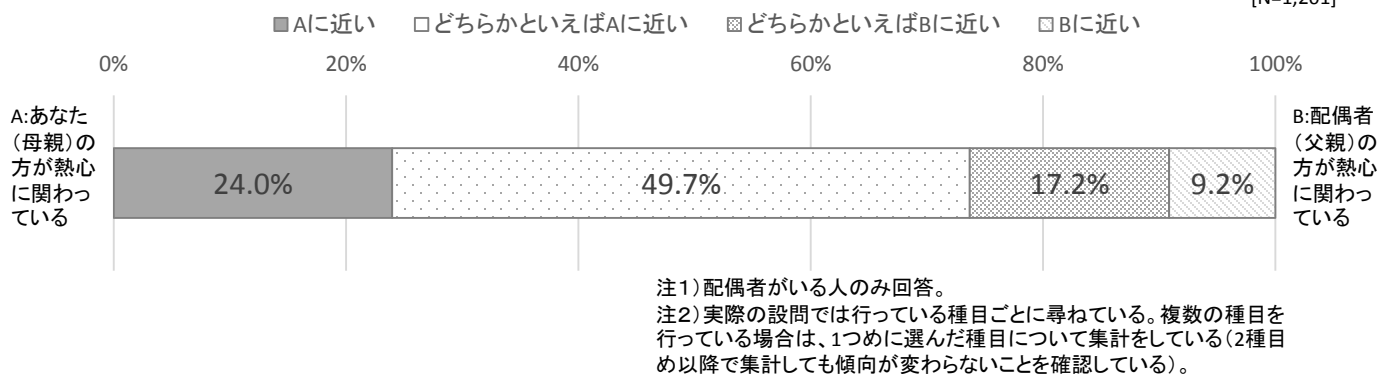
Ⅱ-1) 家庭内の様子

「母親の方が熱心」74%、「父親の方が熱心」26%。

Q: お子様のスポーツ活動における、ご家庭での様子についてあてはまるものを1つ選んでください。

図2-1 家庭内の様子(スポーツ活動をしている子)

[N=1,201]

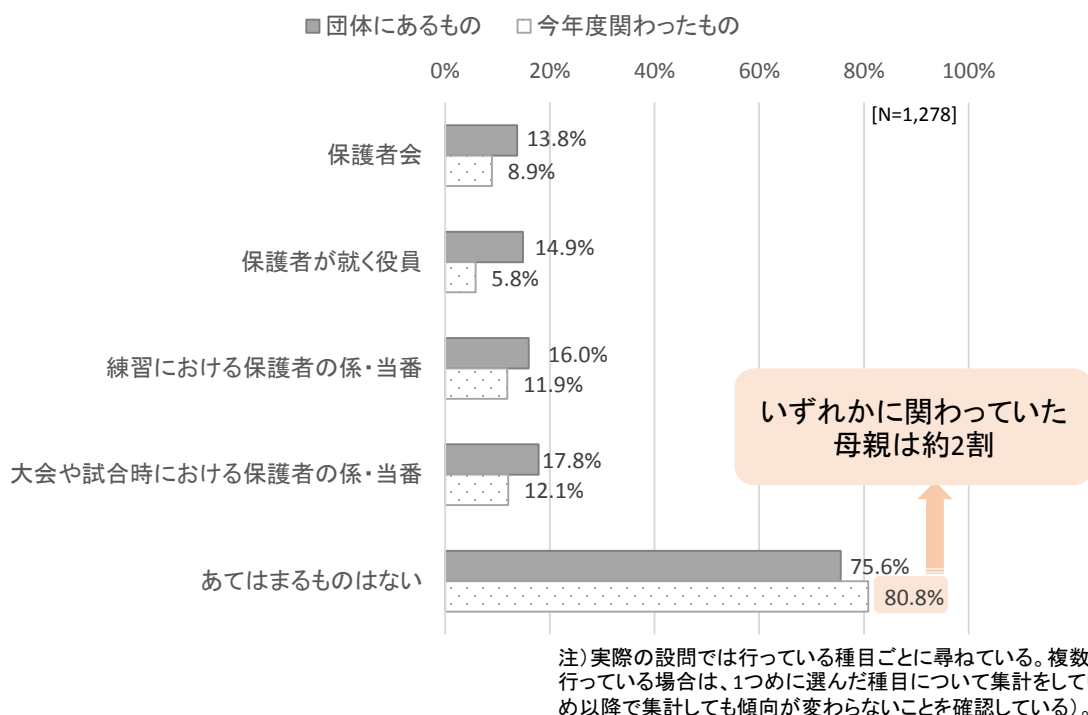


Ⅱ-2) 所属する団体の保護者組織

2割の母親が、保護者会や役員・当番等に関与。

Q: (1) お子様が所属している団体(クラブ・教室等)にあるもの (2) 今年度ご自身が関わったものを、それぞれすべて選んでください。

図2-2 所属する団体の保護者組織(スポーツ活動をしている子)

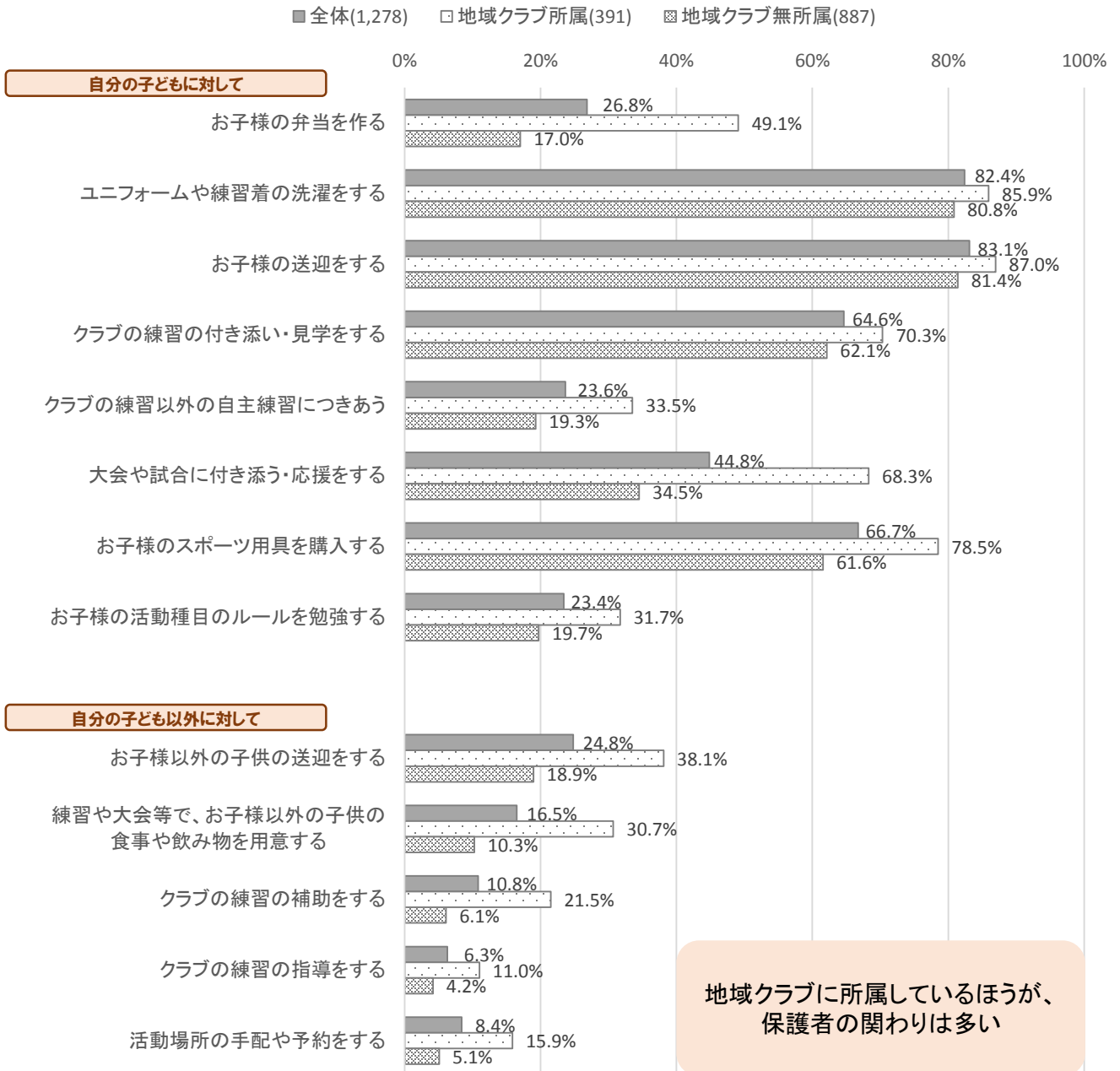


Ⅱ-3) 母親の関与

母親の8割が「ユニフォームや練習着の洗濯」「子どもの送迎」、6割が「練習の付き添い・見学」をする。

Q: あなたは、現在お子様が団体(クラブ・教室等)で行っているスポーツ活動に関して、次のようなことをどれくらいしていますか。

図2-3 母親の関与(スポーツ活動をしている子・全体、地域クラブ所属別)



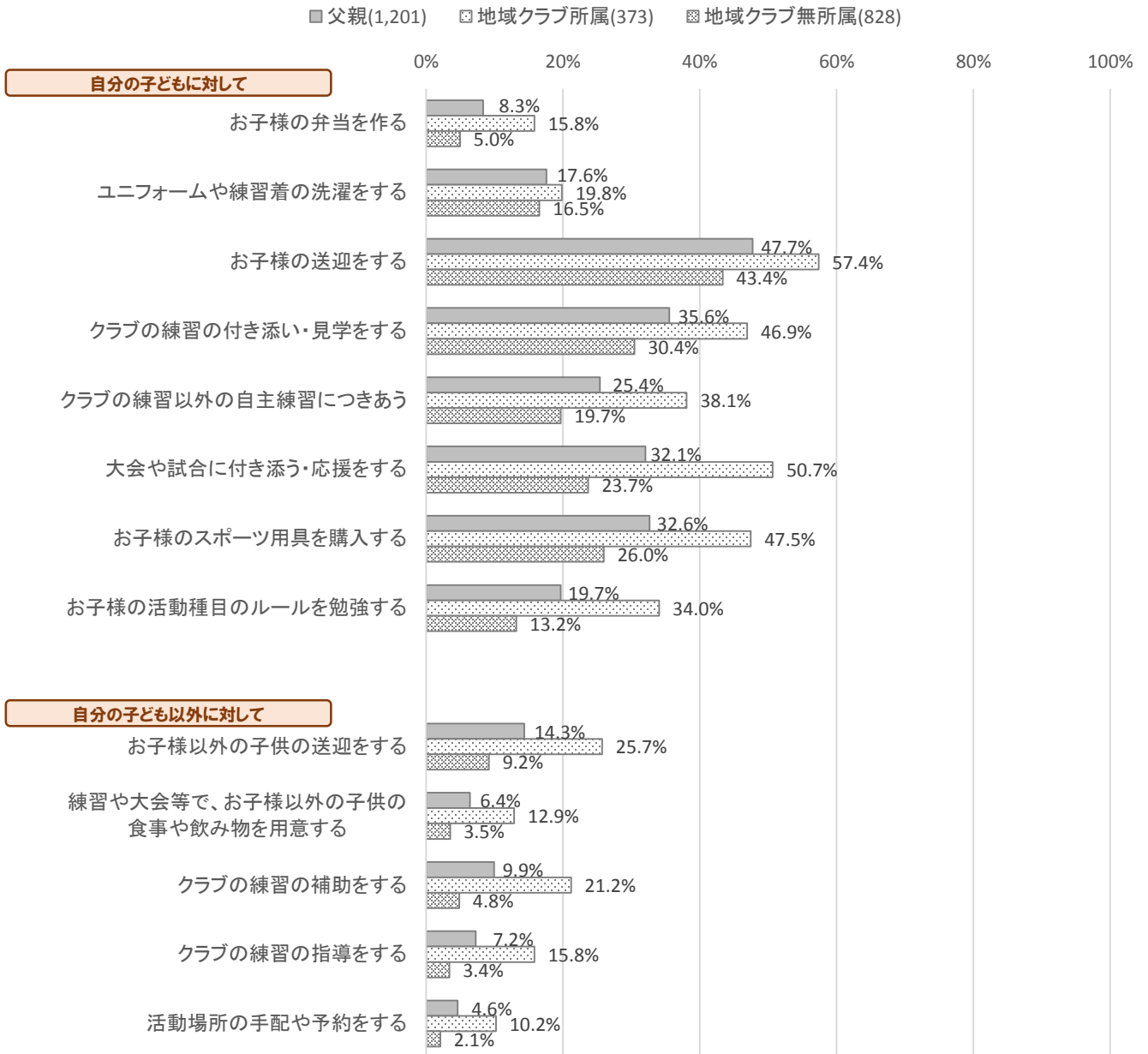
注)「よくする」+「時々する」の%。

Ⅱ-4) 父親の関与

父親が「自主練習につきあう」「クラブの練習の補助をする」「指導をする」の比率は、母親と同程度。

Q: あなたの配偶者は、現在お子様が団体(クラブ・教室等)で行っているスポーツ活動に関して、次のようなことをどれくらいしていますか。

図2-4 父親の関与(スポーツ活動をしている子・全体、地域クラブ所属別)



注1)「よくする」+「時々する」の%。

注2)配偶者がいる人のみ回答。

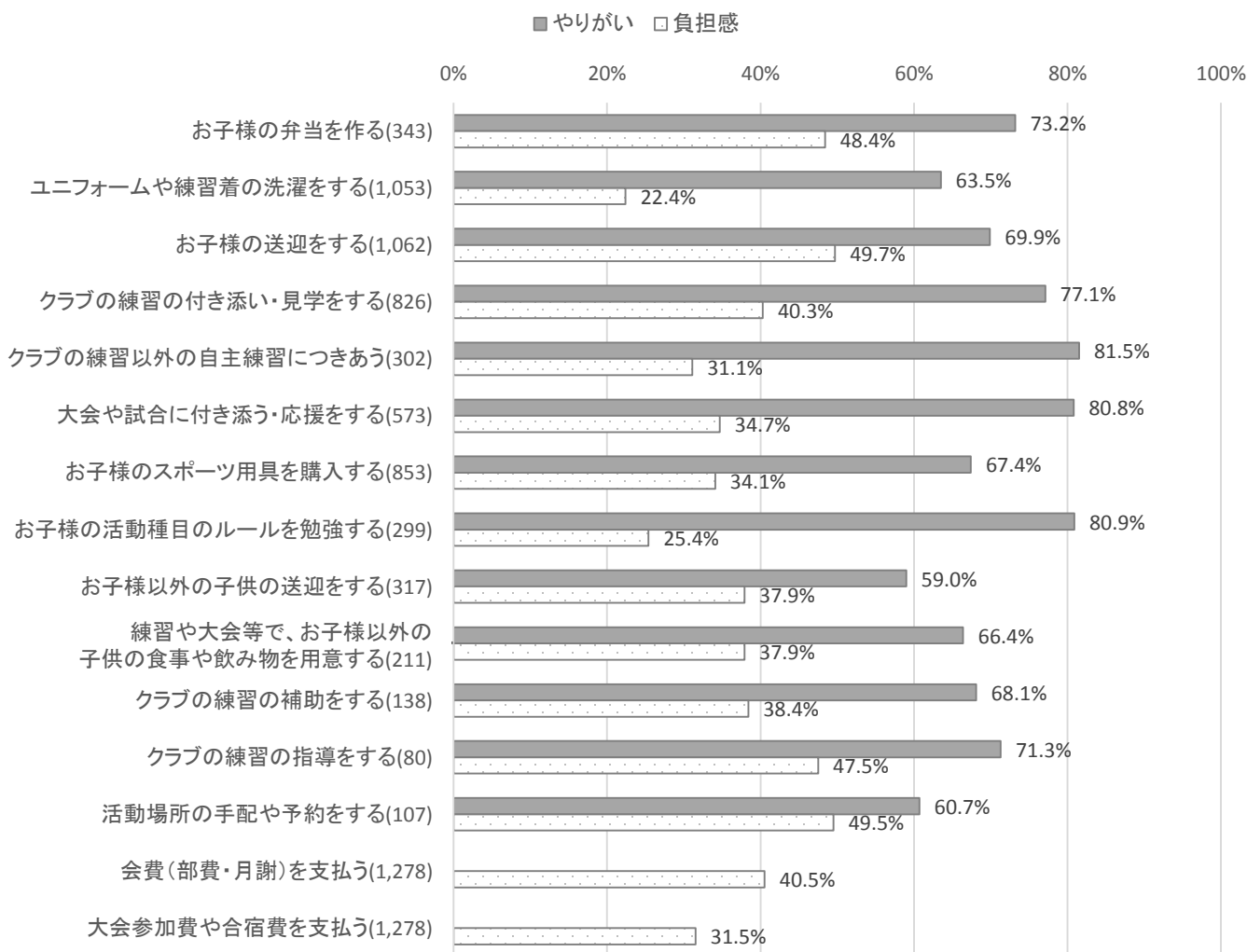
Ⅱ-5) 母親のやりがい・負担感

多くの母親がスポーツ活動への関与にやりがいを感じている。

Q: あなたは現在、お子様のスポーツ活動に関する以下の行動について、どれくらいやりがいを感じていますか。

Q: あなたは現在、お子様のスポーツ活動に関する以下の行動について、どれくらい負担を感じていますか。

図2-5 母親のやりがい・負担感(スポーツ活動をしている子)



注1)「やりがい」は「とてもやりがいを感じている」+「まあやりがいを感じている」の%。

「負担感」は「とても負担に感じている」+「やや負担に感じている」の%。

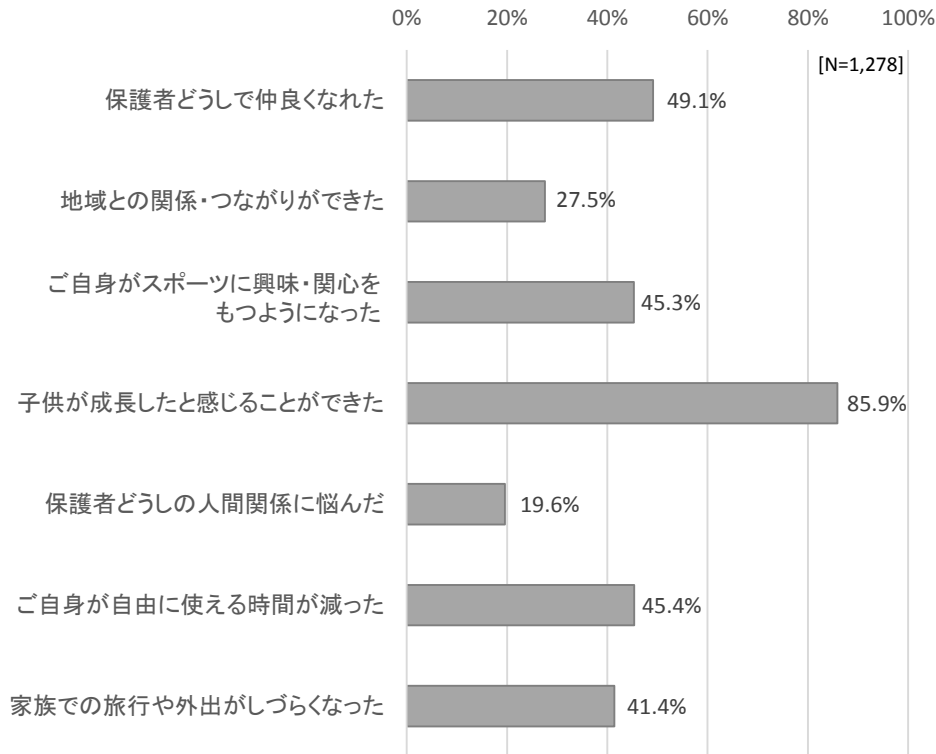
注2)上から13項目に関しては、それぞれの支援を「よくする」「時々する」人を母数にしている。

Ⅱ-6) 母親自身の変化

母親の半数が「スポーツに興味・関心をもつようになった」。自由に使える時間が減った家庭も4～5割に。

Q: お子様のスポーツ活動を通した、あなたご自身の変化について教えてください。

図2-6 母親自身の変化(スポーツ活動をしている子)



注) 図・表ともに「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

表2-1 母親自身の変化(スポーツ活動をしている子・地域クラブ所属別、保護者の期待別)

	地域クラブ所属		保護者の期待			
	所属 (391)	無所属 (887)	トップレベルの選手をめざす (68)	校内で活躍できる (421)	人並みにできる (580)	生活に困らなければ下手でもよい (205)
保護者どうして仲良くなれた	67.8%	40.9%	76.5%	57.7%	43.6%	38.0%
地域との関係・つながりができた	47.3%	18.8%	54.4%	33.0%	22.1%	22.4%
ご自身がスポーツに興味・関心をもつようになった	57.0%	40.1%	75.0%	56.3%	38.1%	33.2%
子供が成長したと感ずることができた	88.7%	84.7%	89.7%	91.0%	85.2%	76.1%
保護者どうしの人間関係に悩んだ	33.0%	13.6%	41.2%	25.4%	15.7%	11.7%
ご自身が自由に使える時間が減った	59.6%	39.1%	67.6%	54.2%	39.0%	38.5%
家族での旅行や外出がしづらくなった	61.6%	32.5%	72.1%	53.0%	34.3%	27.8%

子どものスポーツ活動には主に母親が関与し、多くの支援にやりがいを感じる一方で、送迎や費用の支払いなどに負担を感じている。特に地域クラブに所属する場合や、子どもへの期待が高い母親は、スポーツを通じたよい変化をたくさん感じる一方で、悩みも多く抱えている。

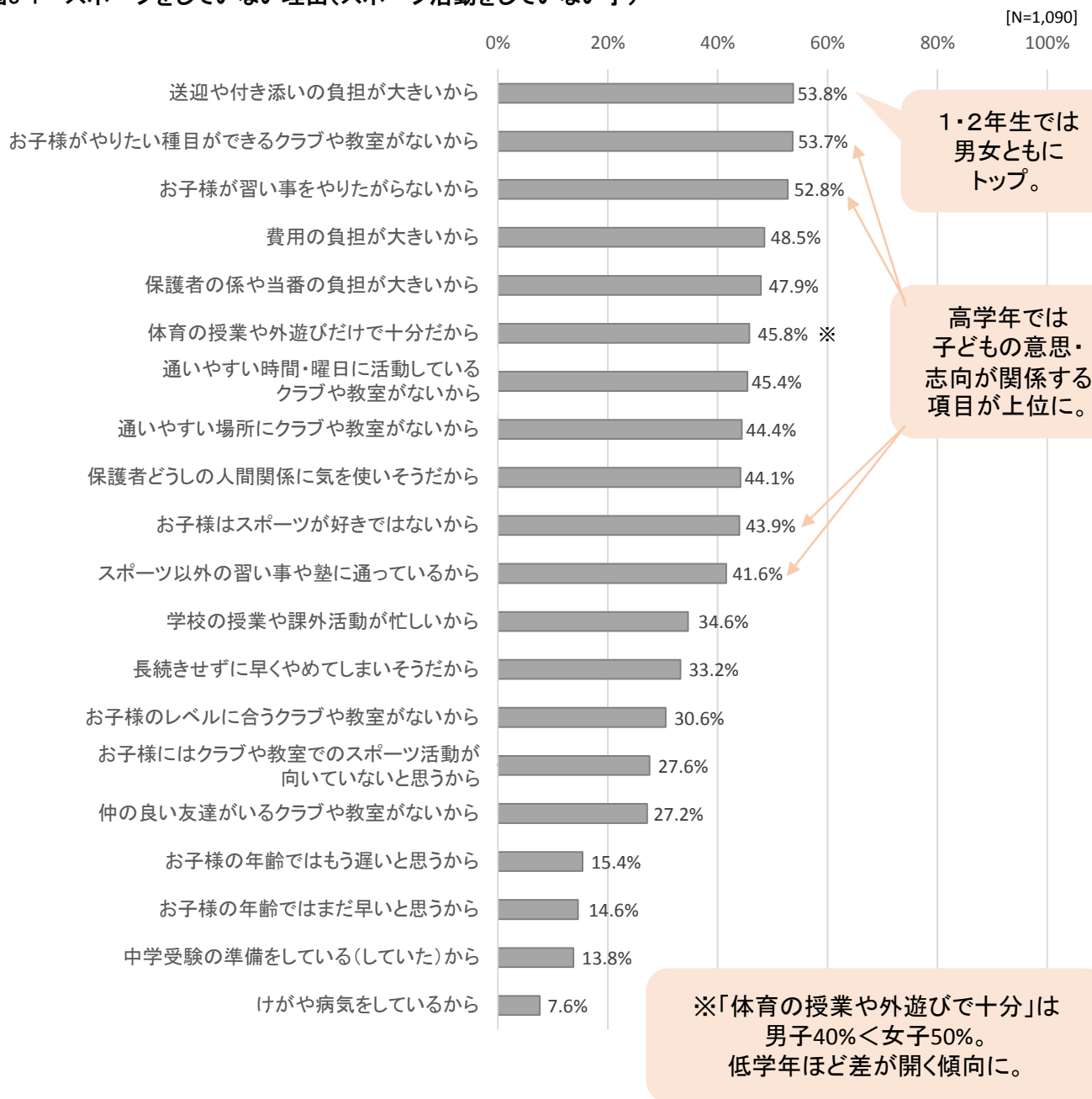
Ⅲ. スポーツ活動をしていない子どもの家庭

Ⅲ-1) スポーツをしていない理由

「送迎の付き添い」「費用の負担」「係や当番の負担」など保護者の負担が上位にみられる

Q: お子様を現在、団体(クラブ・教室等)に所属してスポーツ活動をしていないのはなぜですか。

図3-1 スポーツをしていない理由(スポーツ活動をしていない子)



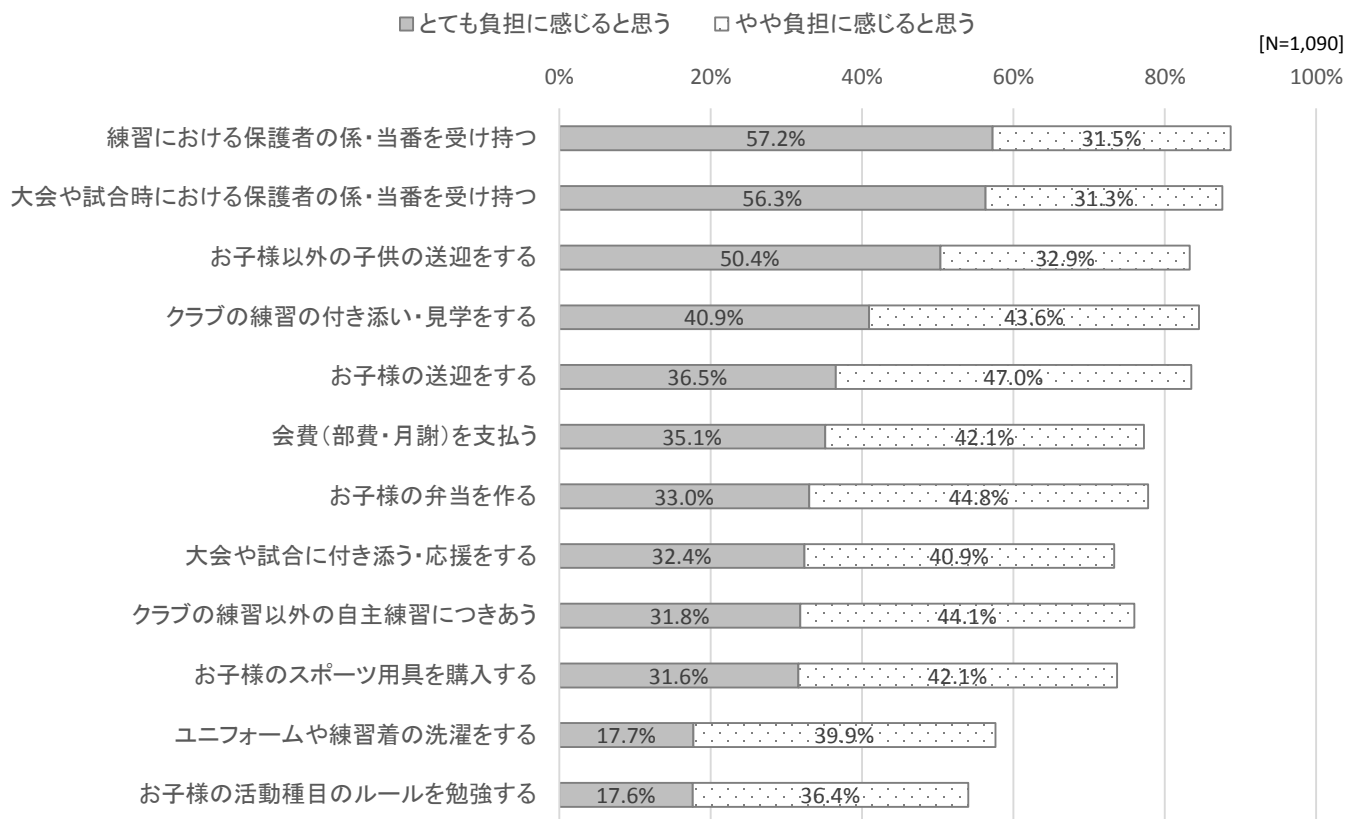
注)「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

Ⅲ-2) 母親の負担感

係や当番、自分の子以外の子どもたちへの関与に対する負担感が特に高い。

Q: もしこれからお子様が団体(クラブ・教室等)に所属してスポーツ活動をするようになったら、あなたご自身はどれくらい負担を感じると思いますか。

図3-2 母親の負担感(スポーツ活動をしていない子)



低学年男子は「とても負担に感じると思う」が他より高い項目が多い。

子どもがスポーツ活動をしていない背景に、保護者の負担感がある。特に低学年では、子どもの意思や志向が理由となる家庭が高学年に比べて少ないだけに、環境の整備や保護者負担の軽減が進むことで、スポーツ活動に参加させやすくなる家庭があるのではないだろうか。

～～母親たちの実際の声を聞きました～～

地域クラブに所属する子の母親

Q 所属する前は、親の関わりについてどのようなイメージがありましたか？

正直、リサーチした。「どれだけ自分が関わらずに(済むか)」みたいな感じで。「家族も大事にしろ」というチームなのもあって、入った。

地域のお母さんと関わる、知らない人と接するとか、(競技について)自分も学べるというのは楽しみにしていた。

Q 実際に関わってみてどうですか？

同じ学年の保護者の方がすごい仲良い。(チームが)強いとかじゃなくても、(子どもたちが)成長している過程をずっと見続けられるのが楽しい。

正直すごく楽しくて、役員終わって寂しいぐらいの感じ。(親同士も)ゴルフに行ったり飲みに行ったり、家族みんな楽しんでる。

当番とか未知の世界だった。自分にできるかなと(思った)。なるべくやらないで済むなら、やらない方向でと思った。

レギュラー争いで、母親もギスギスしているのではないかと、ドキドキしていた。

親も忙しいイメージがあって、すごい抵抗があった。想像が膨らみ過ぎて、1か月ぐらいは(地域クラブに参加するかを)悩んだ。

楽しい時は楽しいけど、色々習い事しているので、つまってくると心折れそうになる時がある。役員はできるだけやりたくない。

(自分が)楽しいと思うことはない。仕事だと割り切っている。

親子大会ではすごい夫が活躍していた。子どもの影響で私たちも体を動かすようになったし、無駄に土日をごさなくなった。

スポーツ活動をしていない子の母親

Q お子様にはスポーツをさせたいけどできない理由は何ですか？

保育園の頃、自分の仕事がフルタイムで、送迎ができなかった。今は少し余裕ができたけど、今度は(子ども)本人が逆に行きたくないと言う。

普段の練習で毎回保護者が来なきゃいけないとかは、子どもがスポーツ云々より、自分の負担を考えてしまって、「やめた」となる。

多少(費用が)高くてもいいから、(親同士の)しがらみがないところがいい。安いところに行っても、その後のお茶とかでお金がかかったりする。

(引っ越してきて)自分のママ友がいらないから、情報が入っていない。小さいお教室だと検索しても出てこない。市でやっているのも分からない。

(地域クラブは)習うことに直接関係ない母親の出番が多い。アスリートに育てたいなら頑張ると思うけど、うちはそこまでして入れたくない。

注)2017年6月に、首都圏在住の小学生の母親計10名に実施したグループインタビューでの発言より引用している。()内は筆者による補足。グループインタビューの詳細は報告書に記載する。

IV. 子どものスポーツ環境に対する意識

IV-1) 満足度

スポーツ活動をしていない子の母親は、地域の遊び場や施設などに対して「わからない」の回答が多い。

Q: お子様のスポーツ活動に関する以下のことについて、あなたはどれくらい満足していますか。

表4-1 満足度(全体、スポーツ活動の有無別)

		全体 (2,368)	スポーツ活動	
			有(1,278)	無(1,090)
お子様の通っているスポーツ教室・クラブ等	とても満足している	/	11.7%	/
	まあ満足している		71.3%	
	あまり満足していない		12.2%	
	全く満足していない		1.8%	
	該当しない・わからない		3.0%	
お住まいの地域の遊び場 (公園、広場など)	とても満足している	4.6%	6.0%	2.9%
	まあ満足している	42.1%	53.5%	28.6%
	あまり満足していない	24.6%	29.0%	19.4%
	全く満足していない	8.1%	7.7%	8.4%
	該当しない・わからない	20.7%	3.8%	40.6%
お住まいの地域のスポーツ施設 (プール、体育館など)	とても満足している	3.6%	5.1%	1.9%
	まあ満足している	35.7%	48.2%	21.0%
	あまり満足していない	26.1%	31.6%	19.7%
	全く満足していない	8.2%	8.5%	7.9%
	該当しない・わからない	26.3%	6.6%	49.4%
お住まいの地域で開かれる運動会・ スポーツ体験教室など	とても満足している	2.7%	4.1%	0.9%
	まあ満足している	29.7%	42.4%	14.8%
	あまり満足していない	25.1%	32.3%	16.7%
	全く満足していない	7.7%	8.0%	7.4%
	該当しない・わからない	34.8%	13.1%	60.2%
お子様の体力・運動能力	とても満足している	4.4%	6.3%	2.3%
	まあ満足している	39.0%	49.1%	27.2%
	あまり満足していない	32.9%	35.1%	30.4%
	全く満足していない	7.9%	7.1%	8.7%
	該当しない・わからない	15.8%	2.4%	31.4%

IV-2) スポーツ環境に対する意見

「いかなる理由でも体罰はやめた方がよい」は74%。

Q: 次のようなAとBの2つの意見について、あなたの考えに近いのはどちらですか。

表4-2 スポーツ環境に対する意見

[N=2,368]

A: 子供が小学生のうちから、1つの競技に専念することが望ましい	Aに近い	4.5%
B: 子供が小学生のうち、多様な競技に取り組むことが望ましい	どちらかといえばAに近い	23.4%
	どちらかといえばBに近い	56.0%
	Bに近い	16.2%
A: 子供のスポーツ指導においては、楽しさを味わうことを重視すべきだ	Aに近い	24.7%
B: 子供のスポーツ指導においては、技術の習得を重視すべきだ	どちらかといえばAに近い	59.4%
	どちらかといえばBに近い	13.7%
	Bに近い	2.2%
A: やむを得ない場合であれば、指導者による体罰があってもよい	Aに近い	2.1%
B: いかなる理由でも、指導者による体罰はやめた方がよい	どちらかといえばAに近い	24.3%
	どちらかといえばBに近い	41.1%
	Bに近い	32.5%
A: 子供のスポーツ環境はなるべく国や自治体が整備するのが望ましい	Aに近い	7.1%
B: 子供のスポーツ環境は民間が積極的に参入して整備するのが望ましい	どちらかといえばAに近い	45.4%
	どちらかといえばBに近い	41.8%
	Bに近い	5.6%

組織でスポーツをするのが難しくても、地域の遊び場や施設を利用して、個人や家族でスポーツを楽しむことはできる。しかし、スポーツ活動をしていない子どもの場合、母親のそうした場に対する認知・関心が低い。保護者の余裕や関心がない家庭であっても、子どもが地域でスポーツを楽しむことができる条件を明らかにすることが、今後の研究上の課題と言えるだろう。

本調査の企画・実査・分析は、以下の笹川スポーツ財団の研究者が担当しています。

- ・宮本 幸子（公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員）
- ・山田 大輔（公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 研究員）
- ・澁谷 茂樹（公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主席研究員）

本調査の詳細な分析や関係者へのヒアリング結果、考察等をまとめた報告書を2017年末に発刊予定です。